

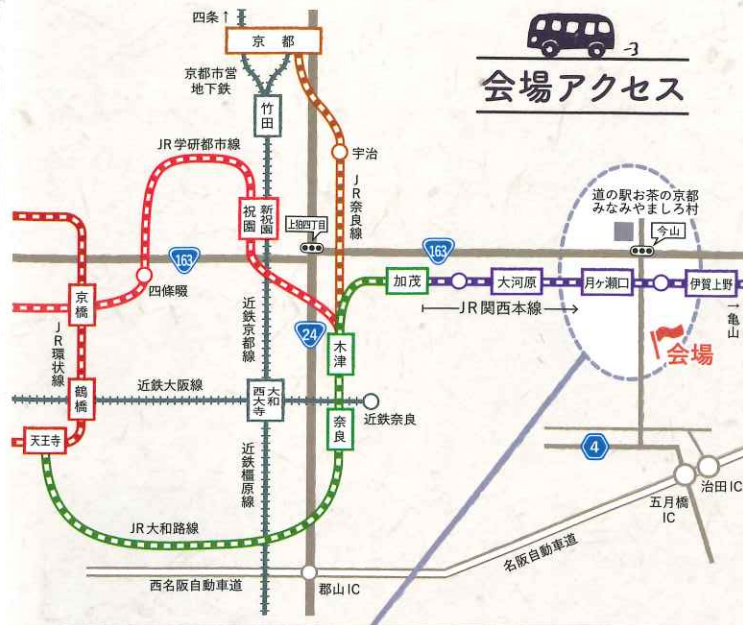


田山花踊り

江戸時代以前より伝わる
華やかな踊りと
受け継がれる文化

毎年
11/3 開催
京都・南山城村
旧田山小学校
諏訪神社

京都府指定無形民俗文化財
南山城村指定無形文化財



主催 / 田山花踊り保存会
お問い合わせ / 南山城村役場 産業観光課
TEL 0743-93-0105
南山城村観光推進事業



役場HP

江戸時代以前より伝わり
一時は途絶えるも
戦後に復活を果たした、
地域で守り繋ぐ民俗文化

田山花踊りは「雨乞い祈願」として始まり、現在は「五穀豊穡」「家内安全」を願い、毎年奉納されています。

最古の奉納記録は江戸時代ですが、その起源は明らかではありません。大正13年を最後に一時は途絶えるも、有志の呼びかけにより、少ない記録と古老の記憶を頼りに昭和38年見事復活。以来、村外でも多数披露してきました。

近年は地元住民だけでなく、村外に移り住んだ者が花踊りのために帰省したり、田山区に移住した若者や子どもたちも加わるなど、地域の結束力を強める行事となっています。歴史情緒あふれる華麗な装束、迫力ある踊り、受け継がれる文化をお楽しみ下さい。



大正13年に行われた花踊りの様子



田山花踊りを美しく彩る装束。特に、中踊りと本太鼓が背負う巨大な飾り「シナイ（飾荷）」と友禅染めの衣裳はこの神事ならでは。
シナイは戦後、花踊りが復活する際に現存する1本を解体し、作り方を研究。踊り子たちが

見どころ 其の3

美しく 印象的な装束

手作りしたという逸話が残っています。
友禅染めの衣裳は、京都の著名な染色家・皆川月華氏によるもの。昭和41年、実際に花踊りを見てもらい「名張川の清流に紅葉を散らしたデザイン」を提案して頂きました。平成27年、花踊り復活50年の節目には衣裳を復元新調し、時代を越えて繋ぐ伝統文化を色鮮やかに盛り上げています。



旧田山小学校から諏訪神社への移動は「いりは（入端）行列」と言い、いりは太鼓と法螺貝のリズムに導かれ、ゆつくりと進みます。参列するのは乳幼児から小中学生・成人男性と様々。特に子どもは年齢にしたがって役割が変わるため、年々成長が感じられます。各役の説明は下図をご覧ください。

見どころ 其の2

緊張感漂う 神夫知口上

小学生の男の子が務める神夫知。諏訪神社で最後の踊りを奉納する前に口上を述べる重要な役です。太鼓の上に袴姿で軍配を手に立つ姿は凛々しく、口上が終わるとともに太鼓の一打が響き、踊りが始まる緊張感をご体感下さい。



田山花踊り 開催概要

【日時】毎年11月3日（祝日）13時～

【場所】旧田山小学校・諏訪神社

（京都府相楽郡 南山城村 田山中シヨジ）

スケジュール

15時半頃	13時～
	愛宕踊り（旧田山小学校・校庭）
	いりは行列（旧田山小・諏訪神社）
	愛宕踊り（以降、諏訪神社）
	保存会・来賓挨拶
	神夫知口上
	踊り奉納（演目は毎年異なります）
	餅まき・終了

いりは行列

花踊りの役者は代々長男が務めてきましたが、現在では子どものみ、女子も参加しています。



① 警護

先頭は二人の武士。青竹を手に持つ。



② 払い棒

女装束で竹の棒を持って踊る。



③ 棒振り

小学4年生～中学生。柳生長谷川流の棒術の型で進む。



④ ササラ

乳幼児～小学3年生の子ども。両手のササラを鳴らし、「ヤーハア！」と掛け声をあげる。



神夫知（しんぶち）
諏訪神社で最後の踊りを奉納する前に口上を述べる。



⑤ いりは太鼓

小学4・5年生の子どもたちが交代で太鼓を叩きながら進む。太鼓の音は雷鳴を表す。



⑥ 本太鼓

シナイを背負い女装束。行列では太鼓を叩かないが、諏訪神社での演技は圧巻！



⑦ 法螺貝

4人の山伏が法螺貝を奏で、雨雲を呼びよせる。



⑧ 唄付け

12人の唄い手。金箔のマスクを被り、顔は見えない。



⑨ 中踊り

12人の踊り手。化粧をし、背中にシナイ、胸にはかんこ（小さな太鼓）をつけ、バチを持って踊る。



道化（ひょっとこと天狗）
子どもたちにお菓子を配る人気者だが、実は踊りの師匠で全体の指導役。

